

開発途上国とのGSE (研究グループ交換) プログラムについて カンボジアを訪れて感じたこと

研究グループ交換委員会

委員長 吉崎 広江
(東大阪東RC)

GSEプログラムとは、25歳から40歳までの若い職業人(団員)4~5名と経験の深いロータリアン(団長)のチームを異なる地区間で交換するプログラムです。チームは4~6週間にわたり相手地区に滞在し、職業研修やプレゼンテーション、ホスト家庭との親睦等を行ないます。職業奉仕あり、国際奉仕あり、新世代奉仕ありと、ロータリーならではのユニークな教育プログラムです。今年度と来年度の2年間、当地区はスリランカ(D3220)とのチーム交換を予定しています。

スリランカとのGSEは、松本G・岡部GEの「アジアの開発途上国との交換希望」を実現したもので、第2660地区の長いGSEプログラムの歴史で、初めての試みです。しかしながら、アジアの開発途上国での職業研修となると、どのような成果があるのか大変不安に思っていました。

そんな中、クラブのWCS活動でカンボジアを訪れる機会があり、開発途上国とのGSEプログラムには大きな可能性があることに気づきました。それは、どんな分野の事であっても、日本の技術を伝えることは相手側にとって有益であり、相手の不足を知ることはこちらの学びになるという事です。

たとえば、カンボジアの建物は柱を作ったところにレンガで壁を作り、1階、2階と積み重ねて行きます。出来上がりからはそんなこととはわかりませんが、建築基準は無いと思います。また、夕方スコールが降ると町は洪水になり床上浸水状態です。それは、水の排水設計が出来ていないので低いところに水が集まってくるためです。

浸水してもいつもの事なので人々は平気ですが、衛生面でのリスクは見逃せません。もちろん、高等教育機関はありますが、実際の生活現場には還元されていない様です。16歳以下が人口の40%を占めるカンボジアでは、これからの教育が大切なのでしょう。

もしもこういう国からのGSEチームを受け入れたら、自国の問題点に気づき、解決策を考える機会を若い職業人に与えることができることでしょうか。また、こういう国にGSEチームを派遣したら、現地の状況を知り、どんな協力ができるのかを考えるでしょう。加えて、ロータリーならではの有力な人脈と、企業のグローバル化へのヒントを得ることができるでしょう。

今まで私は、職業的に何か高度な知識を得ることばかりが職業研修の成果かと思っていました。しかし、RIによれば、GSEプログラムの職業研修とは「observe how their vocations are practiced abroad, develop personal and professional relationships, and exchange ideas.」(外国で自分の仕事かどのように行われているのかを見たり、個人的・専門的関係を作ったり、アイデアを交換したりすること)だそうです。これは、どんな国や地域、どんな職種の人にでもあてはまるのです。

第2660地区内クラブのみなさま、来年3月26日いよいよスリランカチームが来日します。松本G、岡部GEから頂いた「アジアの開発途上国との交換」というテーマに、みなさんと一緒に取り組むのを楽しみにしております。

ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

